赤十字NEWS

July 2013 Vol.878
http://www.jrc.or.jp
7
赤十字150年
日本赤十字社

赤十字新聞　編集・発行／日本赤十字社 企画広報室　〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3　TEL：03-3438-1311　一部20円　赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

ANA（全日空）グループから病院など全国47の赤十字施設へ、すずらんのしおりと鉢植えが届けられました。患者さんへのすずらん贈呈は、ANAの社会貢献活動として毎年取り組まれているもの。今年は、ANAが『Challenge for ASIA by ANA×AKB48』プロジェクトを展開していることから、AKB48のメンバーもしおり作りに参加し、6月3日の大森赤十字病院（東京都）での贈呈式にはメンバーの横山由依さん、宮澤佐江さん、高城亜樹さん、鈴木まりやさんが出席しました。
（2面に関連記事）

ANA×AKB48
赤十字病院へすずらんのしおり
花言葉は「しあわせ」

小児科病棟を訪れ、しおりを手渡すAKB48の宮澤佐江さん（右下）と鈴木まりやさん（左から2人目）

CONTENTS

TOPICS 2
ANAから日本赤十字社へ
すずらんのプレゼント
クウェートの海外救援金で
いわてこどもケアセンター
いのちと献血俳句コンテスト
作品募集中
常任理事会開催報告
理事会開催報告
第82回代議員会審議結果公告

TOPICS 3
平成24年度
決算概要報告

SPECIAL 4 5
水上安全法
安全守って
水のレジャーを
楽しもう！

AREA NEWS 6 7
兵庫・福井・宮城・神奈川・
東北ブロック血液センター・青森・石川・
秋田・徳島・山口・京都・広島
赤十字奉仕団中央委員会
LOVE in Action Meeting（LIVE）
Voice & プレゼント

WORLD 8
アフリカ開発会議
IFRC近衛会長が訴え
産休サンキュープロジェクト
アフリカの母子支援
インタビュー
IFRCアフリカ地域広報部長
知っておきたい！ 国際人道法

http://www.jrc-undougekkan.jp

http://www.jrc-akb48.jp/

クローズアップ ひと

赤十字奉仕団中央委員長
（飯田市赤十字奉仕団委員長）
堀口美鈴さん

いのちをつなぐ奉仕団活動にあなたも

赤十字の活動を支える全国3048団・220万人の赤十字奉仕団員の代表となった堀口さん。「地域に根ざした活動を広げていきたい。奉仕団の活性化は地域の防災意識を高め、赤十字への協力者拡大にもつながるはずです」と抱負を語ります。

赤十字との出会いは20代後半だった結婚6年目。「姑から『奉仕団員』を譲られたんです」と笑います。以来42年がたちました。「全国の団が同じ目的で活動しているので、初めて会った方とも話の輪が広がり、仲良くなれる。そこが赤十字奉仕団の魅力の一つです」

しかし多くの奉仕団では団員減少が課題に。「奉仕団はボランティア。無理をする必要はありません。自身の生活を大切にした上で、身近なところからいのちをつなぐ私たちの活動に参加してほしい」と期待を寄せます。

一方、今回の委員長就任について家族からは驚きの声が。「家庭での私はただの“母ちゃん”ですから（笑）。でも、奉仕団の活動は家族の協力があればこそ。応援してくれる家族に本当に感謝しています」

PROFILE
長野県飯田市在住。昭和46年に赤十字奉仕団に加入。飯田市赤十字奉仕団委員長を18年にわたり務めており、赤十字の歴史を解説した紙芝居の制作や地域特性を活かした炊き出しメニューの創作などに取り組んでいます。東日本大震災では、陸前高田市の仮設住宅での炊き出し活動などを実施してきました。

写真提供：ANA

AKB48メンバーはすずらんをイメージした白いドレスで登場

ANAから日本赤十字社へ

すずらんのプレゼント

AKB48も患者さんの回復願い

「しあわせ」「幸福の再来」の花言葉を持つすずらんを日本赤十字社の施設へ贈呈するANA（全日空）グループの取り組み。入院中の患者さんの一日も早い回復を願い、昭和31年から続けられています。58年目となる今年は、北海道千歳市で栽培されたすずらんの鉢植えとともに、ANAグループの社員がデザインしたイラストとAKB48のメンバーからのメッセージが描かれたしおり約2万枚が贈られました。しおりをデザインしたANAの客室乗務員、古庄明果（ふるしょうさやか）さんは「しあわせをイメージして温かみのある色を使って描きました」と話しました。

ANAの客室乗務員（右）からすずらんを受け取る救護員制服姿の日赤看護師（昭和36年高松で撮影）

しあわせの贈り物

「一本一本のリボンに『しあわせ』の願いを込めて作りました」というAKB48の4人は、贈呈式に先立ち病室を訪問。「皆さんにしあわせが届くように、すずらんのしおりを持ってきました」と一人ひとりに手渡しました。

小児科病棟では「本や教科書にしおりを挟んで使ってくださいね。勉強がよくできるようになるかも」と笑顔で子どもたちにプレゼント。今年1年生になったばかりの多田陽葵（ただひなた）ちゃん（6）は少しはにかみながらも「はい」と元気に受け取りました。

孫がAKB48の大ファンだという藤原猛子（たけこ）さん（79）は大切そうにしおりを手にしながら「一本の茎にたくさんの花が付いているすずらんって、『しあわせ』の花言葉にぴったりですね」と感謝の言葉を述べました。

贈呈式後の会見で宮澤佐江さんは「子どもたちが笑顔で受け取ってくれて、私たちもうれしくなりました」、高城亜樹さんは「患者さんたちから『ありがとう』の言葉を頂き、気持ちが温かくなりました」とこのイベントに参加できた喜びを語りました。

©AKS

キャンペーンスタート！　AKB48 × 日本赤十字社 Japanese Red Cross Society

合言葉は「JOIN！」

日赤オフィシャルメッセンジャーであるAKB48グループのメンバーが、若い世代に赤十字活動への積極的な参加を呼びかけるキャンペーンが、今年もスタートします。合言葉は「JOIN！」。メンバーがボランティア活動に取り組む姿を描いたCMをはじめ、キャンペーンの全容は次号で特集します。

参加型スペシャル企画も準備中

「いわてこどもケアセンター」

――クウェートからの海外救援金で完成

除幕式で「子どもたちの心身の健全な発展に貢献し、この悲劇を乗り越える一助となることでしょう」と期待を述べたアブドル・ラーマン・アル・オタイビ駐日クウェート大使（左）と達増拓也岩手県知事

東日本大震災で強いストレスを受けた子どもたちを支える「いわてこどもケアセンター」がこのほど、岩手医科大学矢巾（やはば）キャンパス内に完成しました。同センター整備にあたり日赤は、クウェート政府からの海外救援金を財源に1億3700万円を支援。5月29日には、同国への感謝を記したプレートの除幕式が開催されました。

岩手県教育委員会によると、震災後半年の時点で震災ストレスを抱えていた子どもたちは小中高校の児童・生徒だけで約2万人。いわてこどもケアセンター副センター長の八木淳子医師は「最近になって初めて『つらい』と訴える子や、いまだに身体症状の続く子などさまざまな問題が見られます」と現状を指摘します。

常設機関で長期的なケアを

同県では宮古、釜石、大船渡の3地区に「子どものこころのケアセンター」を2年前に設置。盛岡市内などから医師を派遣し週1回程度の巡回診療を行ってきました。しかし、受診者の約9割が未就学児や小中学生であり、長期的なケアが必要であることから、常設機関が求められていました。いわてこどもケアセンターには精神科医や臨床心理士など約20人のスタッフが常駐。内陸部に避難してきた子どもたちの診療を担うとともに、沿岸部の3地区のケアセンターへの医師派遣を通じて巡回診療を支えています。

八木副センター長は「今後の継続受診が可能となったことは保護者に安心感を与え、それが子どもの心の安定にもつながっていきます」とセンター開設の効果について語っています。

第8回「いのちと献血俳句コンテスト」作品募集中

いのちの輝きを俳句につむごう！

俳句創作を通じて、若者を中心とした幅広い世代に献血への意識を高めてもらおうと日本赤十字社が毎年主催している「いのちと献血俳句コンテスト」。8回目を迎えた今年も10月15日まで作品を募集しています。

募集作品はいのちの尊さや愛、友情、助け合い、感動体験などをテーマにした有季定型の句。年齢や性別、国籍を問わず、どなたでも応募できます。優秀作品には厚生労働大臣賞や文部科学大臣賞、部門別各賞などが贈られます。家族や友達と楽しみながら、一句ひねってみませんか。

ピカーっと一句ひねっちゃおう！

【応募先】
郵便　〒353-0001
埼玉県志木市上宗岡3-5-11 日本赤十字社
第8回「いのちと献血俳句コンテスト」事務局
FAX　03-4477-8669
PC・携帯　公式ホームページから

※詳しい応募方法は、公式ホームページ（www.ken-haiku2013.jp/）をご覧ください。

常任理事会開催報告

平成25年6月20日、本社において平成25年度第3回の常任理事会が開催されました。

審議結果は左記のとおりです。

記

1 資金の借入について
（長野赤十字病院の医療機器更新及び舞鶴赤十字病院の電子カルテシステム更新にかかる資金の借入）

2 理事会に付議する事項について
（さいたま赤十字病院の新築工事及び益田赤十字病院の新築工事にかかる資金の借入、東日本大震災義援金にかかる一般会計歳入歳出予算の補正）

3 理事会及び第82回代議員会に付議する事項について
（平成24年度事業報告及び収支決算の承認）

審議の結果、資金の借入については原案のとおり議決され、理事会及び第82回代議員会に付議する事項については、原案のとおり本年6月21日開催の理事会及び第82回代議員会に付議することが了承されました。

また、iPS細胞研究への協力及び造血幹細胞提供支援機関、シリア情勢、予算の補正にかかる5月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

理事会開催報告

平成25年6月21日、全国社会福祉協議会会議室（新霞が関ビル）において平成25年度1回目の理事会が開催されました。

審議結果は左記のとおりです。

記

1 第82回代議員会に付議する事項について
（平成24年度事業報告及び収支決算の承認）

2 予算の補正について
（東日本大震災義援金にかかる一般会計歳入歳出予算の補正）

3 資金の借入について
（石巻赤十字病院の増改築工事、さいたま赤十字病院の新築工事、小川赤十字病院の増改築工事、鳥取赤十字病院の増改築工事、益田赤十字病院の新築工事にかかる資金の借入）

審議の結果、いずれも原案のとおり議決されました。

また、東日本大震災にかかる福島県支部の活動、原子力災害における救護活動基準の作成、義援金に関する課題と今後の方向性、核兵器廃絶にかかる赤十字の最近の取り組み、iPS細胞研究への協力及び造血幹細胞提供支援機関について、それぞれ報告しました。

第82回代議員会審議結果公告

平成25年6月21日、新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」において開催した第82回代議員会における審議結果は左記のとおりです。

平成25年7月1日

日本赤十字社

記

第1号議案　平成24年度事業報告及び収支決算の承認について原案のとおり議決されました。

平成24年度 日本赤十字社の決算概要を報告します

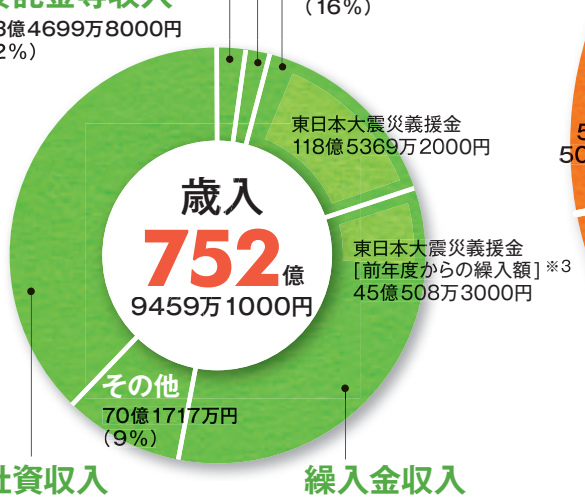
日本赤十字社では、個人、法人の皆さまからいただく社費（会費）と寄付金を主な財源とした一般会計のほか、医療、血液、社会福祉の3つの事業にかかる特別会計を設けています。平成24年度における各会計の決算概要を報告します。

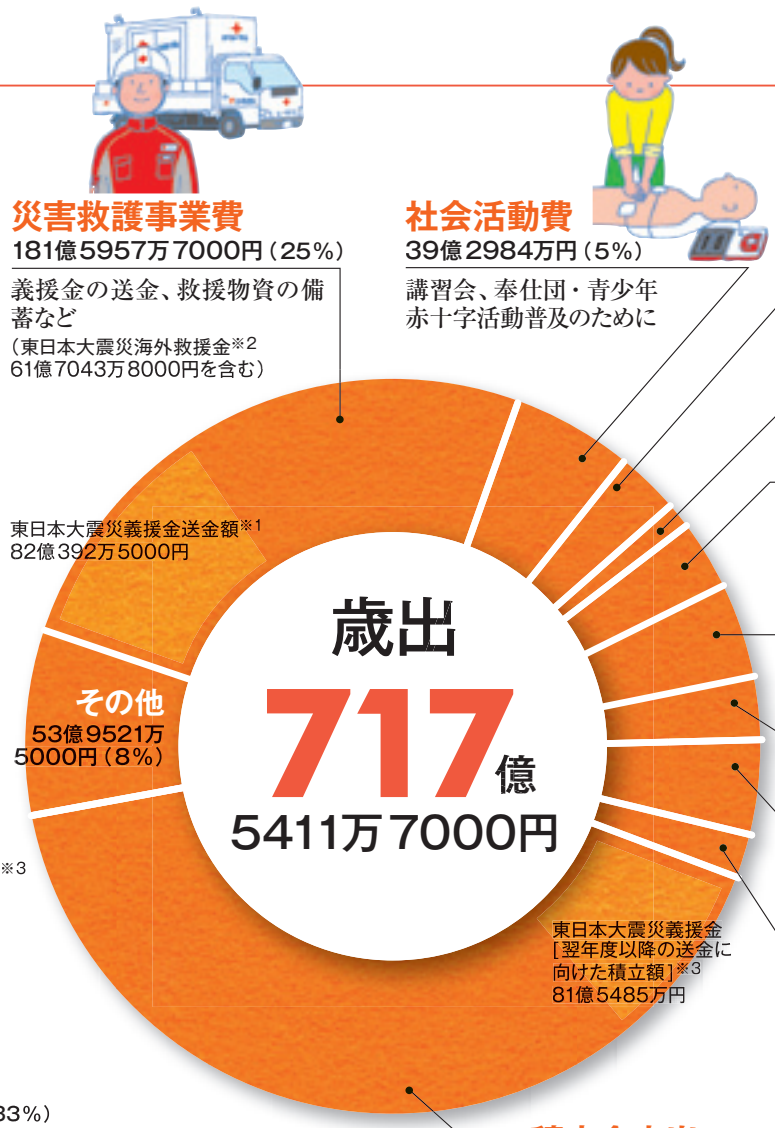
※下記決算額は、千円未満で切り捨てているため、合計額とは一致しません。

一般会計

個人、法人の皆さまからいただく社費（会費）や寄付金を財源に、本社および都道府県支部で実施した災害救護活動、国際活動、救急法などの講習会、ボランティア活動などにかかる歳入歳出は、以下のとおりです。

※1 義援金は、「全額」が被災都道府県に設置された義援金配分委員会を通じて、被災された方々に届けられています。
※2 海外救援金は、日本赤十字社が行う復興支援事業に活用されています。
※3 義援金は、一定のまとまった金額になり次第送金しています。
●合計額には、本社・支部間で重複する額を含んでいます。



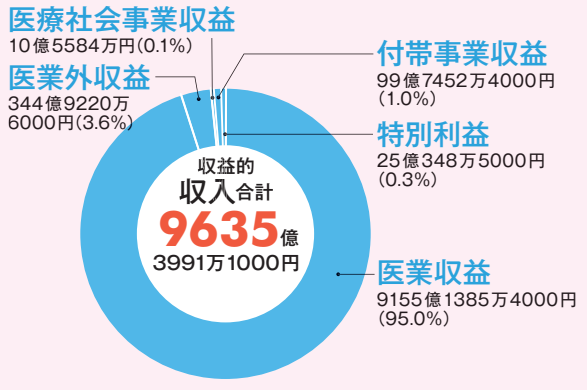


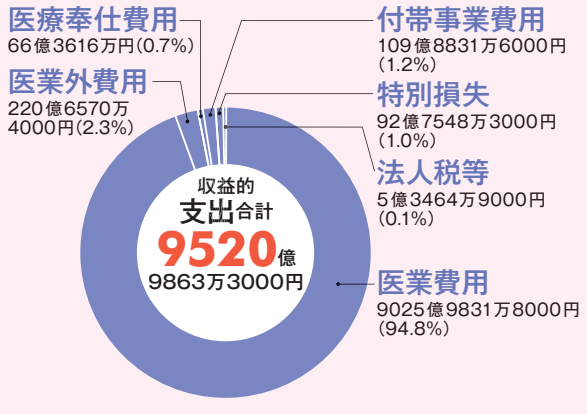
歳入歳出差引額
35億4047万4000円

特別会計

医療施設特別会計

診療報酬を主な財源とする赤十字病院などの運営にともなう収入、支出は以下のとおりです。
●本社・医療施設間の内部取引は除いています。

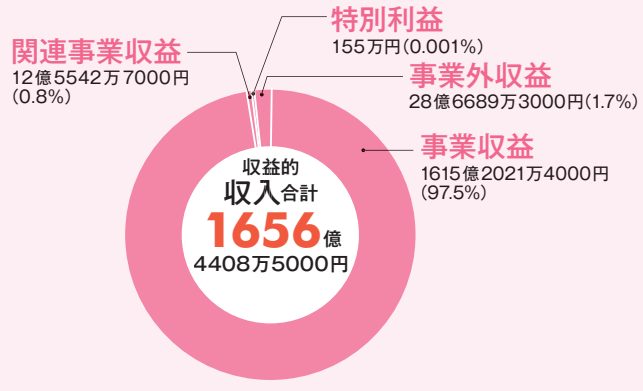


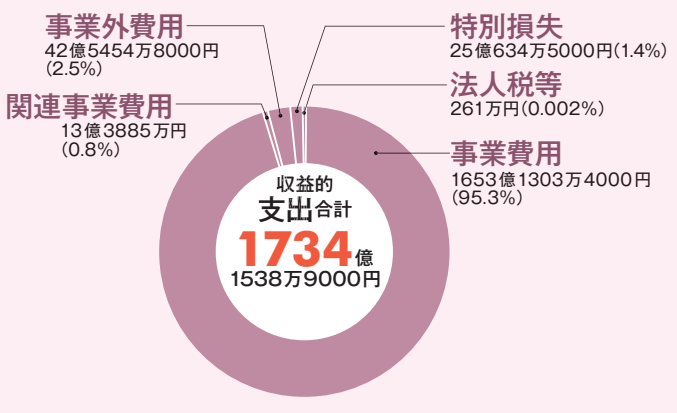


収益的収入支出差引額
114億4127万8000円

血液事業特別会計

医療機関への血液製剤の供給による収入を主な財源とする赤十字血液センターの運営にともなう収入、支出は以下のとおりです。

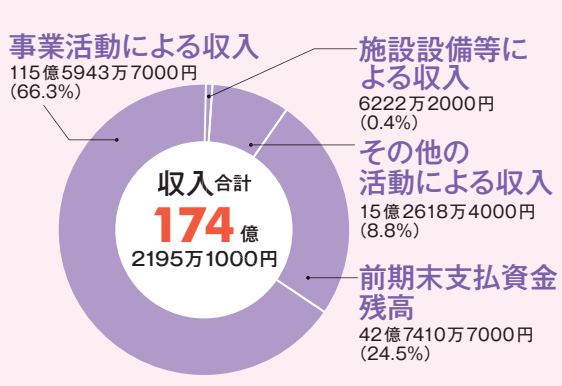


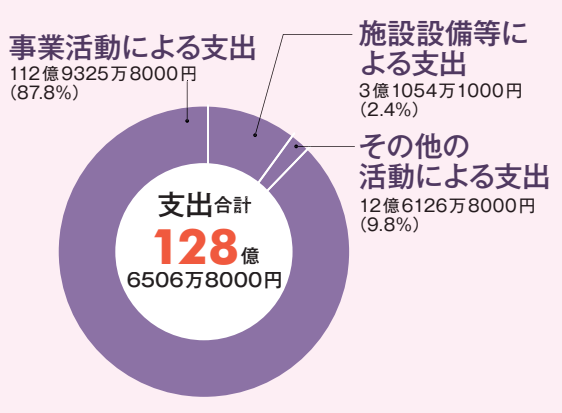


収益的収入支出差引額
△77億7130万4000円

社会福祉施設特別会計

介護保険収入などを主な財源とする各種社会福祉施設の運営にともなう収入、支出は以下のとおりです。





収入支出差引額
45億5688万3000円

決算内容の詳細については、日赤のホームページ（http://www.jrc.or.jp）、もしくは本社・支部でご覧いただけます。

お父さん お母さん 必見

＼もうすぐ夏休み！／

安全守って水のレジャーを楽しもう！

1年で最も水の事故が集中する夏休み。子どもの死亡事故の多くは、河川や海、湖などでの水遊びの最中に起きています。
悲しい事故を避けるためには、水辺の危険なポイントには近づかず、安全第一で行動しましょう。
万が一事故に遭った際の正しい対処法を知っておくことも大切です。

ルールを守って、楽しい水遊びを！

神奈川県支部 救護課 健康安全係長
水上安全法講師
内田 直人さん

子どもたちは水遊びが大好き。つい熱中し過ぎて、周りが見えなくなりがちです。水に転落し、溺れてしまうような事故もそうした状況で起きています。ですから、大人は子どもの様子に十分注意すること。そして、子どもには周りの状況をよく見て行動することや、どんな場所が危険なのかを教えてそこには近づかないことなどのルールを守ってもらいたいですね。

出かける前は大人が確認を

夏休みは子ども同士で出かける機会も増えます。**どこに、誰と、何をしに行くのか、何時に帰るのかを必ず確認してください。そのうえで、1人では行かせない、海や川に子どもだけで行かせないことが大切です。**もちろん、子どもの体調や天気の注意も必要。また、熱中症は水遊びの最中にも発症します。帽子をかぶらせたり、水分補給にも気を配ってください。

いざというときに身を守る術を知っておこう

子どもの水の事故の大半は、服を着ているときに水に落下し溺れてしまうケースです。ですから、**いざというときに身を守る「自己保全」の知識と技術を知っておくことが大切。**本人が落水したときはもちろん、友達や周りの人が溺れかけたときも、あわてず落ち着いて行動できるよう日赤の水上安全法を親子で受講してほしいと思います。

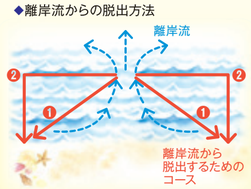
Point 1 ＼正しく知ろう／ 水遊びの危険ポイント

安全な海岸で遊ぼう

●海水浴場以外や遊泳禁止区域は水深が深かったり、流れが速かったりする場所。海水浴場内でも監視区域の外側は、監視員の目が行き届かず危険です。遊泳禁止の赤い旗が出ているときは水に入ってはいけません。

●浜から沖に海水が流れる離岸流（りがんりゅう）。流れに逆らい一直線に岸へ泳ごうとすると、体力を消耗して溺れる危険もあります。あわてずに、流れに向かって斜め45度（❶）あるいは直角（❷）に泳いで離岸流を脱してから、岸に向かうようにします。

◆離岸流からの脱出方法



浅瀬の川も油断しないで！

川遊びでは流れや深みに足を取られたり、苔（こけ）で足を滑らせてしまう危険があります。足のつく場所でも、流れが強いと溺れてしまうことが。水面の色がほかと違う場所の川底は深いことが多いので注意してください。

プールサイドはゆっくり歩こう！

濡れているプールサイドは滑りやすく、転んだり人とぶつかってけがをすることも。排水口付近は、吸い込まれる危険があるので要注意。子どもが大好きな流れるプールは特に事故が多いので気をつけましょう。

水遊びは1人では絶対にダメ！

1人で遊んでいると、溺れたり流されたりしたときの発見が遅れて手遅れになってしまいます。水遊びは2人以上でお互いの安全を確認し合うように！　また小さな子どもからは、絶対に目を離さないようにしてください。

Point 2 水遊び中に多い 病気やけがの手当

熱中症

日かげの涼しいところへ運び、衣服をゆるめて寝かせます。体温が高いときは体を冷やし、飲み物を欲しがったらスポーツドリンクなどを与えます。

切りきず・擦りきず

軽いきずなら少し出血させて血液とともにゴミや細菌を出し、水道水で洗い流した後、絆創膏や包帯をします。出血がひどいときは、傷口にガーゼを当て直接手で押さえるか、包帯をきつめに巻いて圧迫します。

クラゲに刺されたら

水で触手を洗い流し、冷やします。ひどく痛むときは医師に診てもらいましょう。

パニック厳禁！ 周囲を見て、落ち着いて行動を

いのちを守る もしものときの正しい救助知識

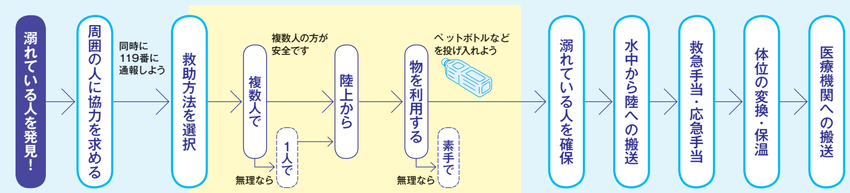
飛び込まないで！ 人を助ける――最優先は救助者の安全

「泳ぎに自信があるから」「子どもなら背負って泳げるはず」は間違った認識です。水中での人命救助は泳力だけでは不十分。自分も溺れてしまう二次事故の危険が大です。救助は、救助者の安全確保が最優先。あわてずに周囲の協力をまず得ること。そのうえで、複数の人で協力しあって、陸上から救助する方法を探します。ペットボトルを投げ入れたり、シャツをロープ代わりに使うなど、身の回りの物も活用できます。

着衣での落水――あわてず、まず浮こう

突然水に落ちてしまうとパニックになりがち。でも緊張して体に力が入ると、余計に沈んでしまいます。大切なのは落ち着くことです。服の間に入っている空気の浮力を活かして仰向けに。顔を上にした状態で浮くことを心がけ、呼吸を確保し、救助を待ちましょう（❶）。ペットボトルやバッグ、クーラーボックスなど身の回りのものも浮き具になります（❷）。泳ぎに自信があっても、服を着たまま泳ぐのは危険です。

◆溺れている人を助ける手順



夏休みに行こう！ 日赤水上安全法講習会

日本赤十字社の各都道府県支部では、安全な救助方法や心肺蘇生を学んだり、着衣泳体験ができる水上安全法の講習会を実施しています。詳しくは各支部のホームページをご覧いただくか、ナビダイヤル（0570-009595）よりお問い合わせください。

『水上安全のてびき』（税込50円）
イラストを使って分かりやすく説明した冊子を販売しています。
詳しくは、（株）日赤サービスホームページ（http://www.nisseki-service.com）まで

Def Techと一緒に学ぼう

日赤「水上安全法」――由比ヶ浜の講習会に小中学生20人をご招待

ドキュメンタリー専門チャンネルのナショナル・ジオグラフィック・チャンネルが人気グループDef Techの2人を招き8月3日に由比ヶ浜海水浴場（神奈川県鎌倉市）の「FOX BEACH HOUSE」（FOXインターナショナルチャンネルズ運営）で開催される日赤水上安全法講習会。この講習会に小中学生20人と保護者をご招待します。講習会後にビーチで行われるDef Techライブを特別席で鑑賞できる特典付きです。

参加申し込みはナショナル・ジオグラフィックのサイトおよびDef Techのサイトで。

※応募者多数の場合は抽選になります。

AREA NEWS

より迅速な血液供給へ 3カ所の配送拠点を整備

東北ブロック血液センター

奥州供給出張所の新設で、岩手県南部と沿岸南部への輸送時間は最大1時間40分短縮

日本赤十字社の血液事業は昨年4月から広域事業運営体制に移行。東北6県の血液センターでは県境という枠にとらわれない供給体制整備を進めており、その一環としてこのほど、東北地方に新しく3カ所の配送拠点を整備しました。

4月30日に拡張・リニューアルした青森県赤十字血液センター弘前出張所（献血ルーム併設）は、県境を越えて秋田県大館市・鹿角市への血液供給も担当。5月8日に新設された岩手県赤十字血液センター奥州供給出張所は、岩手県南部と沿岸南部への血液輸送時間の短縮に力を発揮しています。4月1日に新築移転した宮城県赤十字血液センター登米供給出張所は、災害対策を強化するなど施設機能を充実させました。

献血行くならCoCoSA! 弘前に新感覚の献血ルーム

青森県

歴史と伝統の城下町に融合するモダンなルーム

学生の街としてにぎわう青森県弘前市の献血ルームが4月30日、「弘前献血ルーム CoCoSA」としてリニューアルオープンしました。

開放的でおしゃれなカフェにいるようなリラックス空間が特色のCoCoSA。広さも従来の2倍に拡大され、親子連れでも利用できるよう青森県内の献血ルームで初となるキッズスペースや、ミーティングなどに使える多目的スペースも完備しています。若い世代から大人まで、くつろぎながら献血できる新感覚のルームです。

同ルームはＪＲ弘前駅から徒歩5分。受付時間は全血献血が10時～12時30分、14時～17時30分、成分献血は10時～11時50分、14時～16時50分です。

待たずにプチ臨床検査 金沢赤十字病院でスタート

石川県

地域住民の健康管理と疾病早期発見に役立つことが期待されています

金沢赤十字病院は5月27日の新病棟オープンに合わせて、簡易型の任意健診サービス「プチ臨床検査マイチェック」を赤十字病院として初めてスタートさせました。

「マイチェック」は、血糖、尿酸、コレステロールなど9つの項目の中から受診者自身が検査項目を自由に選べるのが特徴。予約も健康保険証も不要で、ロビーに設置された自動発券機から希望の検査項目の券（500円～）を購入するだけで検査が受けられます。測定は日本臨床衛生検査技師会精度認証施設である同院が行い、検査結果は2、3日程度で自宅に郵送されます。受診者からは「待たずに早く検査してもらえてとても便利です」という声が聞かれるなど、好評を博しています。

見て触ってドクヘリ体験 見学会に小学生30人

秋田県

初めて見るドクヘリに興味津々。スタッフの説明に熱心に耳を傾けました

秋田赤十字病院は5月21日、児童を対象にしたドクターヘリ見学会を開催しました。見学会はドクターヘリについて知ってもらう広報活動の一環として地元小学校に呼びかけ、運航開始後初めて企画されたものです。

参加した小学４年生30人はヘリコプターや通信センターなどを見学。医師や看護師、操縦士らから「ドクターヘリに関係するスタッフの役割」「機体や設備」などの説明を受けました。児童からは「いっぱい助ける道具があるからすごいと思った」などの感想が聞かれました。秋田県のドクターヘリの出動件数は試験運航を開始した昨年1月から今年3月末までで185件。出動要請は徐々に増えており、今後のさらなる活躍が期待されています。

神戸まつりのパレード参加 赤十字運動月間をPR!

兵庫県

大型赤十字バルーンや献血推進キャラクターのけんけつちゃんも参加し、沿道を盛り上げました

「神戸から届け勇気と元気の輪」をテーマにした今年の神戸まつり。兵庫県支部は赤十字運動月間のPR活動として、5月19日に開かれた「おまつりパレード」に参加しました。

「人間を救うのは、人間だ。」の横断幕を掲げた県支部のパレード隊には、奉仕団や看護学生の皆さんも参加。赤十字のキャンペーンソング「やさしさの地図」（AKB48）のメロディーに合わせて総勢90人が行進し、赤十字活動への参加や活動資金への協力を呼びかけました。また、パレードには災害対策本部車両と献血バスも出動。車両には東日本大震災の復興支援活動を紹介したパネルが貼り出され、いのちと健康を守る日赤の活動をPRしました。

赤十字フェスタ開催 被災地から復興太鼓

福井県

保存会は津波で大半の太鼓を失い、各方面からの支援で活動を再開。神山会長は「福井の支援には感謝しきれない。来年も演奏したい」

赤十字の幅広い活動を知ってもらおうと5月10、11日に福井赤十字病院などで開催された「もっとクロス！赤十字フェスティバル」に宮城県石巻市雄勝町の太鼓グループが出演。勇壮な太鼓の響きで来場者らを魅了しました。

雄勝町は震災当時、福井県支部が4カ月にわたり救護活動を続けた地域。今も県内の赤十字奉仕団が現地で炊き出しを行うなど、交流が続けられています。こうした縁から雄勝町伊達の黒船太鼓保存会（神山正行会長）の“返礼”演奏が実現したものです。会場では「復興市」として、三陸沖で取れた海産物など特産品の販売や、B級グルメ石巻焼きそばやホタテの炭火焼きの実演販売も行われました。

震災の記憶を忘れない 日赤の活動記録写真展

宮城県

震災を振り返り、被災された方々へ思いを寄せる機会になりました

東日本大震災による混乱の中、それぞれがお互いに助け合い、乗り越えてきた日々を記録した写真の展示会が、5月1日から14日までニコンプラザ仙台（仙台市）で開催されました。

「たすけあった日々～東日本大震災と赤十字」と題したこの写真展。被災地や被災された方々に思いを寄せ続け、それぞれの立場で活動を続けていくきっかけにと宮城県支部が企画したものです。会場には東日本大震災での日赤の活動記録写真46点を展示。延べ1000人以上が来場し、アンケートには「震災の記憶が薄れていく中、改めて防災の大切さを感じた」「これからも災害などにしっかり備えてほしい」などの声が寄せられました。

大学生とコラボ企画実現! 献血広報で奉仕団とタッグ

神奈川県

今回のボランティア参加を通じて、初めて献血をした学生もいました

青年赤十字奉仕団神奈川県支部連絡協議会（県連協）のメンバーと明治学院大学の学生による合同の献血広報が6月9日、横浜駅西口の街頭で行われました。

今年4月、日本赤十字社と明治学院大学は、若者たちにボランティア参加を呼びかける共同宣言に調印しました。今回の献血広報はその具体化を図ったものです。同大学の学生は、県連協が開催した勉強会で献血の重要性や若年層の献血離れなどについて事前に学習。その後、街頭での献血の呼びかけに参加しました。学生からは「赤十字奉仕団という存在を初めて知った。入団してみたい」「献血が気軽にできることが分かった」「献血についてもっと知りたい」など多くの感想が寄せられました。

赤十字奉仕団中央委員会 災害時の活動などを議論

2日間にわたって各地の奉仕団代表45人が交流

全国47都道府県支部の赤十字奉仕団代表が集う「平成25年度赤十字奉仕団中央委員会」が6月4、5日の2日間、東京の日本赤十字社本社で開催され、日赤の活動資金への協力者を増やすための課題や災害時の奉仕団活動について議論。また新委員長に堀口美鈴さん(長野県)を選出しました。

参加者は6つの分科会で各地の実情や取り組みについて討議。より多くの方から赤十字活動への協力を得ていくために「地域イベントに積極的に参加して赤十字をアピールする」「活動資金がどう使われているかを広く知ってもらうことが大切」などの意見が出されました。災害発生時の奉仕団活動については「日頃から行政や消防、地元団体との連携を密にする」「団員は地域リーダーとして防災訓練を重ねよう」との声が上がりました。

PICK UP! ENTERTAINMENT

若い世代に献血を呼びかけ

LOVE in Action Meeting（LIVE）

今年で4回目となるライブ。大勢の若者が参加しました

献血者数が減少する若い世代に、献血の大切さと協力を呼びかける献血推進プロジェクト「LOVE in Action」。全国各地で展開してきたこの活動の集大成「LOVE in Action Meeting (LIVE)」が世界献血者デー（6月14日）にちなんで同13、14日の2日間、日本武道館で開催されました。

2日間で約1万6000人が来場した無料ライブには、きゃりーぱみゅぱみゅ、AAA、アンジェラ・アキ、土屋アンナ、BENI、Aqua Timezら人気アーティスト・俳優12組が結集。迫力あるパフォーマンスとともに、献血への熱い想いを語り協力を呼びかけました。このプロジェクトは2009年にスタート。DJの山本シュウさんを中心にラジオやイベントなどを通して、「献血は、愛のアクション」と訴えています。

INFORMATION

Def Tech ニューアルバム

『24/7 トゥエンティ・フォー・セブン』発売

日本赤十字社のTVCMソング「Borelo」(2012年)、「Be The One」(2013年）も収録されたDef Techのニューアルバム『24/7』が7月10日に発売されます。2年ぶりのオリジナルアルバムは、まるで1日24時間のような表情を持つ全11曲を収録。

- CD＋DVD付 初回限定盤　2470円（税込）
- CD通常盤　1980円（税込）

Voice & プレゼント

Voice　本紙に寄せられた読者の声をご紹介！

ともに頑張ろう!!　――匿名希望（熊本県熊本市）

5月号の三陸鉄道の記事では、地元住民の方の喜びが伝わってきて涙が出そうになりました。これからも復興に向けて、頑張りましょう!!

プレゼント

Def Techエコバッグを3名様にプレゼントします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

①お名前（匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください）
②郵便番号・ご住所　③電話番号　④年齢
⑤赤十字NEWS 7月号を手にされた場所（例／献血ルーム）
⑥赤十字NEWSへのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

応募先●郵　送／〒105-8521　東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 企画広報室　赤十字NEWS 7月号プレゼント係
FAX／03-3432-5507
メール／koho@jrc.or.jp（件名「赤十字NEWS 7月号プレゼント係」）

応募締切●7月29日（月）必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

気づき・考え・実行する 中学校でJRC登録式

徳島県

「やらされているんじゃなく、すすんでやることで楽しくなってくるんです」

中学生になったばかりの1年生を青少年赤十字（JRC）へと迎え入れる登録式が5月29日、新緑がきらきらと光る雨上がりの徳島市城西中学校で行われました。

今年で54回目を迎えた登録式では、初めての試みとしてJRCの歌「空は世界へ」を合唱部のメンバーが合唱。昨年徳島県リーダーシップ・トレーニング・センターの研修に参加し、現在は生徒会役員やJRC役員を担っている生徒が全校生徒の前でJRC活動への意気込みを発表しました。木津正憲校長は、花の水やりをはじめ自ら気づき、考え、実行している生徒がいることや、野球部員が学校周辺の掃除にすすんで取り組んでいることなどを紹介。「気づく」生徒が育っていることを強調しました。

文化祭で 地雷犠牲者の写真展

神奈川県

学生から同世代の若者へ伝えることが、赤十字の活動や国際人道法などを身近に感じてもらう機会になります

JRC加盟校の三浦学苑高等学校（横須賀市）は、赤十字国際委員会（ICRC）が支援しているカンボジア地雷犠牲者の実態を写した写真展を同校文化祭（5月31日～6月1日）で開催しました。

今回使用した作品は、神奈川県支部が昨年度開催した写真展で展示したもの。国際理解を深める教材として貸し出されました。会場設営や来場者に対する説明資料の作成などは同校生徒会役員が中心に準備し、地雷に関する学習も重ねました。文化祭当日は生徒だけでなく、保護者や教員も写真展を訪れ、「世界にはまだこんなに地雷が埋まっている国があるんだ」「こんな状況下で、なぜ笑顔でいられるんだろう」とさまざまな感想が聞かれました。

赤十字150年写真展 オープニングに130人

山口県

今後は宮城、岩手、大阪、熊本で開催予定。詳しくはhttp://jrc.or.jp/jrc150/ で

全国の主要都市を巡回している「赤十字150年写真展」が5月29日から6月9日の日程で山口県立山口博物館で開催されました。オープニングセレモニーには、赤十字ボランティアや地域・行政関係者など130人が出席。山口赤十字病院の院内ボランティアによるピアノ連弾演奏などで開会を祝いました。

写真展には、アフガニスタンの赤十字国際委員会（ICRC）施設内での車椅子バスケットの様子など、人々に寄り添い続ける赤十字の歴史と多様な活動を写した約80枚の写真を展示。観覧者からは「赤十字の歴史の重みがよく分かった」「さまざまな場面でいきいきと活動する人たちの表情が印象的」などの感想が聞かれました。

関係機関との連携確認 民間宅配業者も初参加

京都府／広島県

京都（上）、広島での訓練の様子

大規模災害に備え、関係機関との連携強化を図るための合同救護訓練が京都府と広島県で開催されました。

京都府支部が5月25日に開催した第4ブロック合同災害救護訓練には、赤十字職員やボランティアのほか、消防・警察・自衛隊などの行政機関、京都府薬剤師会、佐川急便など600人以上が参加。陸上自衛隊のヘリコプターによる救護班の搬送や、合同訓練初参加の佐川急便の協力を得た救援物資の輸送訓練などを行いました。広島県支部は同23日の「平成25年度呉市総合防災訓練」に参加。今年2月に締結した呉海上保安部との協定に基づき、巡視艇による救護班の海上輸送や重症者の緊急ヘリ搬送についての手順確認などを行いました。

WORLD NEWS

第5回アフリカ開発会議（TICAD Ⅴ）

「アフリカの課題解決へ赤十字の力の活用を」IFRC近衛会長が訴え

経済発展と貧困、環境問題などアフリカが抱える課題について話し合う第５回アフリカ開発会議（TICAD Ⅴ）が6月1日から3日まで横浜市で開催され、アフリカ諸国を含む86カ国と国際機関、市民団体などから約4500人が参加。国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）の近衛忠煇会長（日本赤十字社社長）は全体会合のほかテーマ別会合に出席し、アフリカ諸国の問題解決に赤十字が果たす役割などについて訴えました。

会議には39人のアフリカ国家元首が一堂に。ベナンの大統領と握手を交わす近衛会長

世界で最も貧しい国々を抱える一方で、経済成長の著しい国もあるアフリカ。人口100万人を超える都市が52カ所に増えるなど人口動態の変化も大きい地域です。参加した各国の首脳からは、「持続可能な成長を確保するため、防災や環境保全、女性や若者を含むすべての人々の力の活用といった視点が必要」との認識が示されました。

2015年以降のアフリカ開発政策について議論を行うテーマ別会合「ポストMDGs（ミレニアム開発目標）※に向けて」に参加した近衛会長は、赤十字が各国に社を置くネットワークを有し、政府の補完的な役割を担っていることに触れながら「各国赤十字は、支援を必要としている人たちの声を拾うことができ、また、政策決定の場にその声を伝えることができる」と赤十字の活動意義を強調。その上で、アフリカ各国赤十字社が、減災において、より力を発揮できるよう協力を求めました。

日赤の支援活動へ各国から期待

今回のアフリカ開発会議では、官民連携強化、女性や若者の役割重視もテーマの一つ。日赤ブースでは、民間企業と連携して始めた「産休サンキュープロジェクト」の概要のほか、ウガンダ、ケニアなどで実施している保健事業を紹介しました。足をとめたアフリカ諸国の代表者からは「赤十字の活動はよく知っているよ」「自分の国でも活動をしてくれないか？」との期待も寄せられました。

また、IFRCも赤十字国際委員会（ICRC）と並んでブースを出展。主にアフリカ地域で実施する事業の戦略やガイドライン、防災・減災、コミュニティー強化などの資料を配布したほか、各国代表団や他の支援団体と情報交換を行いました。

※MDGs（Millennium Development Goals）は、貧困問題改善を図るために国連を中心に設定された世界共通の目標。2015年がその期限となっている。

産休サンキュープロジェクト

企業とタイアップ アフリカの母子を支援

日本赤十字社は「産休サンキュープロジェクト」を6月から開始しました。

アフリカのサハラ砂漠以南では、医療施設の不足、非衛生的な環境下での出産で年間16万人の妊産婦が、また、はしかやマラリア、下痢などで337万人の乳幼児がいのちを落としています。このプロジェクトは、アフリカの母子のいのちを守るため、賛同企業の社員の家庭に赤ちゃんが1人誕生するごとに、安全な出産に必要な用具が入った「ママバック」1個相当額の1500円が当該企業から日赤に寄付されるというもの。

毎年、社員の家庭に約200人の赤ちゃんが誕生する住友商事は、「わが子の誕生を機に、職場で支えてくれる同僚や上司への感謝の気持ちに気づいたり、広く世界の実情に目を向けて社会的課題の解決について考えよう」とプロジェクトを支援。

日赤では、今後、より多くの企業に参加を呼びかけていく予定です。

インタビュー　キャサリン・ミューラー氏（国際赤十字・赤新月社連盟 アフリカ地域広報部長）

被災地で感じた復興の槌音、人々の活力

国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）アフリカ地域広報部長のキャサリン・ミューラー氏が、東日本大震災の被災地を再訪しました。震災直後に来日して以来２年ぶりに訪れた被災地は、彼女の目にどう映ったのか。話を聞きました。

私が初めて日本を訪れたのは、2011年３月21日から４月12日まで。東日本大震災の救援にあたる日本赤十字社の広報支援が目的でした。テレビ、人々の会話など日本全体が「震災一色」の頃です。

あれから２年以上が経過した６月上旬、岩手県大槌町を訪ねました。町に入り、まず目に飛び込んできたのは、大きく様変わりした風景です。２年前は燃え尽きたビル、潰れた家など破壊された町の景色が見渡す限り続いていました。それが今では、建物の跡地に雑草や野花が生え、かつて静寂に包まれていた町には、土地造成のため家の基礎部分を壊す音や地面を掘り返す音など、復興の槌音（つちおと）が響いていました。

積み重ねた２年間の交流

変化は風景や音だけではありません。広場でサッカーをする子どもたちや、スーパーで買い物をする人々など、大槌町は生活感にあふれていました。今回の訪問でどうしてもお会いしたかった小鎚神社の宮司、松橋知之さん（43）も震災直後よりずっと活力がみなぎっていました。

松橋さん家族との出会いは２年前。彼らの経験を聞いたことから始まりました。知之さんは動けない自分の父親を安全な場所に運び、妻の里美さんは子どもを迎えに学校へ走る。そして子どもたちは父親の知之さんを手伝おうと火が迫る神社に一緒にとどまろうとしたそうです。彼らの勇気ある行動に心が揺さぶられました。

松橋さん家族が住む仮設住宅で。２年前に撮られた松橋さんとミューラー氏の写真が部屋に飾ってあるのを見て、ミューラー氏は「言葉にできないぐらい感動しました」

松橋さん家族は、私が日本を離れてからも、機会あるごとにメールや手紙を送ってくれました。日本語が分からない私は、ネットの翻訳サイトを使って読んでいます。内容を完璧に理解できるわけではありませんが、心のつながりを感じます。こうした交流を重ね、私にとって彼らは家族同然になりました。

日本人の強さ、忍耐力を信じて

道路上のがれきを素早く片づけて被災現場までの道を確保するなど、日本の震災対応は素晴らしかったと思います。

しかし、「震災時の悪夢をまだ見る」と松橋さんが話していたように、多くの被災者がトラウマを抱えています。復興への道のりは長く続くでしょう。でも、日本人が持つ強さ、忍耐力は特別です。日本はきっとこの大変な時期を克服できると信じています。そして私たちはこれからも日本の方々に寄り添い続けます。

大槌町では、新しい家が建築され始めるのは２年後ぐらいになると聞きました。またその頃に訪問し、新しく建てられた家で松橋さん家族にお会いできる日を心待ちにしています。

知っておきたい！国際人道法

最終回 一人ひとりの市民が「知る」努力を

「国際人道法はきちんと理解されているのか？」という声をしばしば耳にします。シリア内戦でも多くの市民が犠牲になっていますが、こうしたニュースを耳にした時、国際人道法の意義に疑問を感じるのかもしれません。

しかし、道路交通法や刑法があっても違反や犯罪は絶えませんが、「法律は不要」とはなりません。国際人道法も同じです。法律として存在することで、許されない行為が明確になっているのです。また、1998年に国際刑事裁判所が常設機関として設置され、法律違反抑止の制度も発展してきています。

市民の「声」も国家や紛争当事者の行動を変える大きな力となります。国際人道法の中に、条約を広く人々に普及することを遂行するルールが含まれているのも、それが理由です。戦争をなくすことは大事ですが、実際に戦争が起きた際のことを想像できなければ、人々のいのちや尊厳を守ることはできません。そのためには、悲惨な現実をしっかりと見据え、戦争という状況下でも守るべきルールがあることを私たち一人ひとりが知る必要があるのです。

赤十字がよりどころとする「人道の原則」はそうした姿勢に立脚しています。